

平成 23 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600416		
法人名	ヤマト株式会社		
事業所名	ニングルの森 北白川		
所在地	京都市左京区浄土寺石橋町69番地		
自己評価作成日	平成24年2月15日	評価結果市町村受理日	平成24年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2670600416&SCD=320&PCD=26
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 京都ボランティア協会
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地1 「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	平成24年2月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣に哲学の道があり、少し行けば、寺院がたくさんあります。春は桜、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪景色と、散歩しながらでも、四季を贅沢に味わえる場所となっており、皆様に散歩に行かれる事を毎日楽しみにさせています。 現在、力を入れて取り組んでいる事は、ご利用者の生活習慣の尊重や馴染みの場所や物に触れる機会をなるべく多く提供できるようにすることです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「馴染みのある環境を継続し、その人らしい生活を提供する」に沿って地域資源を取り入れながら、利用者の馴染みの関係の発掘と継続に向けて取り組んでいる。利用者の生活習慣を大切に毎朝の地蔵参りや喫茶店にコーヒーを飲みに行っている。個別で馴染みの場所を訪ねたり、遠出の散歩や週1回のドライブそして季節毎の遠足や日帰り旅行など、家族の方が「こんなに母が外出好きだとは思いませんでした！」と話される位によく出かけている。今年度は、町内会の班長として、運動会・夏祭り・地蔵盆などの行事に利用者と一緒に参加をしている。又、事業所主催の敬老会や母の日会などに、地域へ呼び掛けをするなど地域の一員としてのつながりを大切にしている。一昨年看取り介護の経験をした事で、看取り指針の充実化が図れ、家族の希望があれば協力医の支援のもと応じている。管理者は職員意見を聞き、提案された意見を一緒に考え具体化していく事で職員の意識向上を図っている。利用者も建物の条件が悪い中「毎日がリハビリです」と言いながら、階段の上がり下りや段差のある生活の中で怪我もなく元気に過ごしている。職員も常に危機意識を持ち丁寧な関わりで利用者の生活を支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然・地域と統合した人間としての幸せな生活を理念とし、実現化に向けて日々積み重ねている。理念の揭示(日誌・額への掲示)話し合いを行っている。カンファレンスの前に「理念」を踏まえた話等を導入し、会議等にも理念についての話を行っている。	法人理念に沿った「職員がしたい介護の視点」のアンケートを取り、意見を集約して「馴染みのある環境を継続し、その人らしい生活を提供する」という事業所独自の理念を掲げている。週1回のドライブも利用者の馴染みの場所に行く等、馴染みの関係継続を行う事で理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等で、地域の隣人との挨拶・お散歩されている方への声かけを行うよう努めている。町内会との交流。 実際に町内会の方で、イベント等に何度か訪問されている。例えば、折り紙教室	町内会の班長の立場で、情報収集がし易くなり町内会との交流を積極的に行っている。区民運動会・地藏盆・夏祭りに利用者と共に参加し、地域と繋がりをしている。折り紙の得意な利用者家族が地域の方や利用者を対象に折り紙教室を開催しそして敬老会やクリスマス会にも来て頂く等、地域と双方向の交流が広がりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて話す機会を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本会議・ミーティング等において、イベント時等に今までの経験を活かすようまた、新しい発見を重視するよう努めている。参加者の方に分かりやすくするために、写真、動画などで報告している。	地域包括支援センター職員・利用者家族・利用者・町内会長のメンバーで隔月に開催し、パワーポイントや動画で行事報告や生活の様子を知らせている。活発な意見交換をし「食べた献立を教えてください」と意見が出され、直ぐに玄関に掲示するなど反映している。	運営推進会議でたくさんの方の意見を聞く事が望まれるので、メンバーとして近隣の店の方や、前町内会長、消防署、警察署などへの声掛けをして参加を要請される事をお勧めする。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域のセンターへ利用者と共に訪問するよう努めている。地域の方々は勿論の事、消防・警察・役所等への理解と協力を更に深めていきたい。左京区事業所連絡協議会及び白川ブロック会議に参加し、左京区との交流を図っている	左京区事業所連絡協議会や白川ブロック会議に参加して、区の担当課からの情報提供や意見交換をしている。区の担当課には議事録で説明をして現状を知って貰い、常に困った事があれば相談に行く等顔馴染みの関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの設置。 社内研修(新任・現任)において周知徹底を図っている。 社内研修については、毎年継続的に実施している。	法人研修「身体拘束をしないケア」で学び、職場内では伝達研修をしている。日中出入り口の施錠はせずに利用者の動きについて、職員が絶えずアンテナを張る努力をしている。1階のトイレに遠隔のセンサーが付いているが、運営推進会議でも話し合われ建物の構造上やむを得ないとの判断であった。言葉の拘束にも気をつけて、気になった時は職員同士で注意をし合っている。	

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの設置。 社内研修(新任・現任)において周知徹底を図っている。 社内研修については、毎年継続的に実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についてのセミナー参加を検討。また、現在成年後見人制度対象者について入所時等に勧めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行えるよう、また、質問等を行える時間を設けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。 運営推進会議にて、アンケートを実施する。課題については運営推進会議にて報告する。「ご意見・ご要望用紙」の説明と意見箱の設置を、運営推進会議にて説明する。	面会時や運営推進会議の際など随時聞くようにしている。今年度、家族アンケートを実施し「職員の対応について」等の意見があったが、直ぐに皆で話し合い改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時、受け付けており、また会議・ミーティング・職員間の報告ノートにて、よりよいサービスへの意見や提案を具現化する機会を作るよう努めている。 職員面談の実施	業務改善カンファレンスの時や、朝礼・個人懇談・職員アンケートや日々の業務の中で意見を聞いている。レクリエーションのアンケートで「月1回は喫茶に行く支援をしたい」や「毎月家族にお便りを発行したい」など積極的な意見が出た。取り上げて運営に反映させる事で職員の士気を高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課により、各職員の評価や努力、勤務状況や業務内容を運営者に管理者が報告を行い、把握に努めている。 評価する機会を設け、各職員に向上心を持ってもらえるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員は研修計画に沿って、基本的なことを教えている。定期的に、認知症ケア、パーソンセンタードケア等の専門的な内容から、虐待防止や感染防止等についての基本的なことも研修している。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業施設(グループホーム)との見学・意見交換の受け入れ、また他同業者(他サービス事業者)の見学を受け入れている。 複数事業所連携事業による合同研修及び交流会		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を取り入れ、利用者・家族からの聴取に努めている。ただし、入居時の質問事項の細分化は行っており、ニーズを収集する時間(見学と、利用前の利用者宅及び入所施設の訪問)を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時、グループホームとはどんなサービスなのかという説明と家族が抱える問題点や不安感を聴く時間と答える時間をもうけている。入所に対する不安は、ケースによりグループホームでどのような介護が行えるか例をあげたりすることで、利用が難しいと考える家族に対しても、グループホームの可能性について話すよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのケースによるが、状況次第では、他のサービスについての説明を行うこと、利用者の現在必要としているサービスは何なのかというサービスの抽出への助言について話し合いを行う時間をもうけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべく、職員と利用者の方が一緒に生活できる機会を作るように努めている。買い物と一緒に行って、調理を共に行い、ご自分で好きな量を配膳して頂き、食器を洗い、片付ける。と食事というキーワードだけでもこれだけの事があり、出来る事はやって頂き、職員が「ありがとう」と言う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントについては複数の家族が参加できるように促しや、イベントでもなるべくご家族とご利用者の方が一緒に出来るような事を取り入れ、共に喜んで頂ける機会の提供。一人のご利用者の方に対して、複数のご家族が参加しやすい環境を提供する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人にも、施設の行事案内や広報誌をお送りしている。 馴染みについては、我々としても大切にしたいと考えている。場所等については、希望があれば、お連れしたり、ご家族にお願いするようにしている。実際に馴染みの方と関係を継続されている方もおられますので、その関係を大切にしていきたい	昔の教え子が月1回程度来所されるので継続する様に、お茶を出したり近況を伝えたりしている。馴染みの方にも行事案内や広報紙を送って様子を知らせている。今迄の習慣を大切に毎日地藏参りやコーヒーを飲み喫茶店にいくなどの日課が継続出来るように支援をしている。薬局やスーパー・商店街などの馴染みの店に行っている。「自宅に帰り整理をしたい」など家族に伝えて実現した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	時に喧嘩や諍いはあるものの、関係構築の為に努めて いる。 コミュニケーションが難しい方については、職員が関わ るようにしている。洗濯物を皆で協力してたたんだり、外 周りの掃除も同じように協力して実施できる環境を提供 している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時及び退所後の支援・相談の対応を行うよう努め ている。 お手紙を送ったりする事により、つきあいを大切にする ように努めている。利用者退所後の家族の電話・来園 時の協力についての説明。 また、利用者外でも相談者(元見学者等)への相談は随 時行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	なるべく、ご本人の言葉(希望・不満等)を汲 み取れるよう努めている。その内容をケアプ ランに反映したり、ご家族構成や生活習慣 を記録としている。	利用時に家族や本人に生活歴や趣味・嗜好を聞 きアセスメントシートに記入している。日々の生活 の中で、利用者の言葉からくみ取り追記をしてい る。月1回全員のケースカンファレンスを行い可能 な場合は本人も参加して、直接希望や意向をを聞 いている。聴き取りの困難な人は表情や仕草から 把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	センター方式を取り入れることで把握に努め ている。 また、毎月モニタリングを実施しており、日 常の変化を検討し、経過の把握に努めてい る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	カンファレンス、モニタリングを行い、介護計 画に反映できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ご本人やご家族のご希望や意向を踏まえてケア プランを作成し、基本的には毎月カンファレンスを 実施している。また、日々の生活の中でご本人や ご家族の意向を反映している。基本的に、チーム で話し合いケアプランを作成しており、今後も継 続して実施していきたい	利用者・家族の意向に沿った介護計画を作成し、 毎月モニタリングをし、ケースカンファレンスを職員 で行い可能な時は利用者も参加している。3ヶ月 に1回介護計画を見直して現状に即した介護計画 を作成している。介護計画の軽微の変更は追記し ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙の中にもセンター方式の内容を反 映させ、ご利用者の方の言葉、表情等を記 録している。		

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の習慣に合わせて、毎朝地藏参りにお連れしたり、喫茶店に行かれている習慣の方については、個別にお連れしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	資源マップの作成。近くのスーパー、薬局、喫茶店、本屋、和菓子屋等、ご本人の趣味、嗜好に合わせて利用している。ご本人の趣味や習慣を伺い、必要に応じてボランティアに来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療の自由は尊重し、今までのかかりつけ医を大切にいただいている。また現、当施設の主治医についてもご理解いただけるよう、間に入り説明及び協力を努めている。	利用契約時にかかりつけ医に受診できる事を家族や利用者に説明している。協力医は月2回往診し、緊急時24時間対応が可能なので、協力医の受診希望をする。往診時も変化のある時は、家族の同席を求めている。内科医以外の受診は家族が同行受診している。受診時の情報は家族に口頭で伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設看護職及び主治医との話し合いを密に行うよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院に関しての受け入れ体制、の報告・情報交換。家族への対応についての相談援助に努めるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて看取りについての指針・体制を作成している。	看取りの指針があり、契約時や随時容態変化の時に家族に話しをしている。看取りは1年2ヶ月前に経験し、職員には勉強会を繰り返し行い不安を取り除くようにしながら取り組んだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防局の緊急対応についての講習を受けている職員を配置しており、またマニュアルにより事故防止策を講じている。連絡網(緊急連絡先)の準備と対策マニュアルの作成。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練(避難誘導・初期消火訓練)を利用者参加のもと、年2回実施している。運営推進会議等でも避難訓練をすることを地域の方にも伝えるようにしている。今年度、町内会長に参加して頂いている。	年2回昼夜想定訓練をし、1回は消防署の立ち合いの下で行っている。避難訓練の案内を運営推進会議の時や近隣住民に配布している。訓練には自治会長や地域の自主消防分団員の参加がある。地域の防災訓練に利用者も一緒に参加している。備蓄は備えている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室対応。鍵をかけることは可能である。トイレについても鍵をかけることができるようになっている。言葉かけや対応については、カンファレンスや研修を行い、周知している。	入職時や年1回は「プライバシー・声掛け・接遇」研修を行っている。声掛けの時には「～して下さい」等の命令口調で話さないように気をつけている。言葉遣いのきつい時やトイレへの誘導で気になった時は朝礼時や個別に注意をしている。全居室やトイレは鍵がかけられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身での決断。援助時の促しに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の体制を大切にしている。朝ごはんが遅い人や、就寝時間についても、生活習慣やご希望に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベントの日に、かみかざりなどをプレゼントしたり、希望に合わせ、化粧水やマニキュアを塗るなどして、おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本の献立は、法人内の栄養士が作成した献立を基に実施している。買い物は週に3回程度で、天気の悪い日以外は、利用者の方と一緒にしている。調理の手伝い、片付け、配膳はご自分の好きな量を温かい物は温かく、冷たい物は冷たいまま提供できるよう努めている。イベントや誕生日、外食については利用者の希望に応じ対応できている。	法人の栄養士が献立を作り、利用者と共に買い物に行き、準備や配膳・下膳・洗い物・ふきあげ等で、夫々の力を活かしている。汁物とご飯は自分の食べられる量を自分でよそっている。おやつは利用者の食べたい物を手作りとする事が多い。外食は月1回利用者の希望を聞き、お寿司や和食の店・フードコート等行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表の作成・個別の対応についての把握により対応している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	MC（モーニングケア）・NC(ナイトケア)・歯科受診により対応している。 3回の食後に、口腔ケアの支援を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターン表の作成やトイレの誘導の声かけにより対応している。ケースカンファレンスを通じて、おむつが必要かどうかの取り組みも行っている。	排泄表をつけて排泄パターンを掴み誘導している。入所前にリハビリパンツで過ごしていた人が、布パンツとパッドで過ごせている。パッドの大きさはその人に合わせて調整している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録物、服薬・塗布薬の個別化と表作成により対応している。 予防の為に乳製品を提供したり、定期的に散歩に行く事により予防に努めている。排泄表と排便チェックの作成		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴回数を増やしている。	週2～3回希望に応じて入っている。地下風呂場への移動に時間がかかる等、課題はたくさんある、浴槽は大きい1対1介助でゆったりと楽しめるようにしている。足浴や清拭をする時もある。拒否する人は、時間をあげたり、音楽をかけたり、信頼関係の出来ている職員が誘い成功している事が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間の定めを押し付けず、自身の生活パターンに合わせている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	記録物、服薬・塗布薬の個別化と表作成により対応している。 往診記録・受診記録の作成		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除や洗濯たたみ、水撒き、水やり、食器拭き等の家事は、ご本人の意向を伺い、分担できる範囲で実施している。買い物、ドライブ、地藏参り、塗り絵、歌を歌う、おやつ作り等、利用者の意向に沿って実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶店の利用、散歩や買い物が主となるが、外出については職員が共に出かける。家族へ利用者と共に外出してもらえよう、促す（散歩・外食・医療受診など）よう努めている。お一人で出かけた希望の方は、能力に応じて対応している。	毎日の散歩は哲学の道・銀閣寺の昇り口や周辺の公園にも出かけている。利用者ひとりで出掛けて行く事も有るが、見守っている。週1回のドライブは大原・比叡山・嵐山・宇治・北山方面に出かけ四季折々の風景を楽しんだり、馴染みの場所に立ち寄る事を意識して出掛けている。日帰り旅行は海遊館・平等院・琵琶湖で「ミシガン」に乗ったりしている。遠足は苺狩りや芋掘りにも出かけ楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理できる方については、自身で所持してもらい。難しい方の場合でも買い物時にお財布よりお金を出し清算していただくように援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用をしてもらっている。また、手紙については代行で投函する場合もあるが、郵便局へ行く場合もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備に努めている。 居間については、カレンダー及び季節感のあるものを設置している。	玄関から入って直ぐのロビーにソファとテーブルを置き、寛げる場所としている。2階の居間兼食堂は折り紙教室で作った折り紙や利用者の塗ったぬり絵が飾られている。テレビの音量に気をつけて食事中は消している。日常生活の中で卓上ピアノを弾き利用者と一緒に歌ったりぬり絵をする等楽しい光景である。明かりは暖色系の間接照明や温度・湿度にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ロビーの開放及び居室により自身の生活の確保に努めている。 ロビーにアルバムを配置してより寛げるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持込をうながし、レイアウトは極力ご利用者及びご家族に委ねるよう努めている	居室はベッドと洋服ダンスが備え付けられ、馴染みの物は大切な仏壇や遺影・自分で描いた絵・たくさんの書物・卓上ピアノ・整理ダンスやカレンダーなどを持ってきて、夫々に自宅と同じように設へ居心地の良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置。及びスノコ等による高さの調節等に努めている。階段利用のため階段設備については職員による付き添いを行うことで安全確保に努めている		